



健康社会学研究会

ニューズレター No.84

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川洋）

TEL 03-5860-4586 FAX 03-5860-4945 E-mail : h.morikawa@thu.ac.jp

ニューズレター NO.84/2017年7月 編集担当：白子純子

平成29年度総会報告

去る6月10日（土）、第120回月例会終了後に「平成29年度総会」を開催しました。議長に田村会員を選出し、議案書に基づき下記4議案について審議いただき、全ての議案について原案どおり承認されましたので、ご報告いたします。

進行：高澤委員

第1号議案：平成28年度事業報告（説明：杉田副代表）

第2号議案：平成28年度決算報告（説明：森川委員）

第3号議案：平成29年度事業計画案（説明：松岡代表）

第4号議案：平成29年度予算案（説明：森川委員）

また、運営委員の任期満了に伴う改選について、森川委員より新運営委員が報告されました。新代表には、新運営委員会より松岡代表が推薦され、承認されました。

健康社会学研究会 代表 松岡正純

新運営委員の紹介（50音順敬称略）

●池田康幸（埼玉県三芳町健康増進課 管理栄養士）

多種多様な方々が集まる健康社会学研究会の運営委員として3期目を務めさせていただくこととなりました。この6年間を振り返ると、私自身会員の皆様から時には優しく、時には厳しく多くのYELLをいただきながら歩むことができました。今季こそは、私を選んでいただいた皆様に恥じないように、そして会員の皆様に多くのYELLを送ることができるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●上杉剛（三郷市役所健康推進課）☆新運営委員

この度、運営委員に選んでいただけましたこと大変光栄に思います。「健康はどのようにつくられるのか？」「どうしたら健康な社会はつくることができるのか？」そんな疑問から本研究会に通うようになりました。学生時代に持ったこの疑問のヒントを会員の皆様、月例会・セミナー等参加者の皆様と共に模索していきたいと思っています。至らない点もあると思いますが、研究会の発展に少しでも貢献できるよう頑張ります！

● 齊藤恭平（東洋大学ライフデザイン学部）

引き続き運営委員にご指名いただきありがとうございます。いつの間にか会員としても古株の方になってしまいました。私の役割は若手の考え方や活動を側面からサポートすることかなと考えております。健康社会学を名乗るわが国唯一の学問的組織としての責任もあります。是非、皆さんで会を盛り立てていきましょう。そのためにも分野を超えて色々な方々を会に巻き込んで欲しいと思います。

● 下園美保子（愛知県立大学看護学部）

健康社会学研究会とお付き合いは、現場保健師の頃からですので10年以上になります。志高く、そして、違いを認め生かす仲間の集まりは、奈良の現場で孤軍奮闘していた私を救ってくれました。ヘルスプロモーションという高い高い目標は、一職種では構築できません。それを体感させてくれる場が、この「健康社会学研究会」だと思います。ぜひ、様々なテーマで様々な方と、セミナーや月例会を通じて、一緒に体感しましょう。

● 白子純子（帝京平成大学ヒューマンケア学部）

健康社会学研究会とお付き合いも気がつくとは度々干支が回っていました！研究会でたくさんの方のご縁が出来、現在の自分の血や肉になっているのを感じています。今回新しいメンバーが運営委員として参画して下さることになり、この研究会に新しい風が吹く予感もしています。どうぞ今後とも末永くよろしく願いいたします。

● 杉田秀二郎（文化学園大学現代文化学部）○副代表

私の専門は健康心理学ですが、「健康」というキーワードを共通点として研究会に参加し、「健康な社会」の実現を目指しております。また、私見ですがヘルスプロモーションとは「健康の達成による幸福の実現」であり、健康社会は「健康幸社会」につながるものとも思っています。他職種・他分野の人々が集うこの研究会は、一人ひとりの顔が見えるつながりを作ることができると思いますので、それぞれがネットワークを形成しながら健康社会に向けて進んでいきましょう！

● 助友 裕子（日本女子体育大学）

どのような人・組織と協力すればコミュニティは健康になるのだろうか？私の関心は、ヘルスプロモーション活動におけるパートナーシップ形成プロセスの解明にあります。限られた文脈を大切に、そこから健康社会の創造につなげる本研究会の趣旨に賛同し勉強させていただいております。多様な職種、老若男女が集う社会の凝集性が垣間見られるのも本研究会の面白いところです。ここからアイデアを創造し、一緒に実践研究活動を試みませんか。

● 臺有桂（鎌倉女子大学短期大学部）○副代表

さまざま異なる背景を持つ研究会のメンバーですがヘルスプロモーションへの熱き思いは同じ。楽しく活動をし、みんなが健康になる、そんなコミュニティを作りたいですね。研究会で、お互いにエンパワメントし合い、日々豊かな活動をしていきましょう！

●高澤みどり（千葉県市原市保健センター）

健康社会学研究会で学んだことや得られたことは、今の私の根となり幹となり枝葉となり、少しずつ実を結んできました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。（比例して身体もかなり育ってしまったような・笑）
様々な職種や分野の方が集まるこの会の運営に携わっていただけることをうれしく思います。微力ではありますが、気持ちだけは粉骨砕身！よろしく願いいたします。

●長岡知（順天堂大学スポーツ健康科学部） ☆新運営委員

順天堂大学習志野キャンパスの研究室で、はじめて保健社会学（当時）の扉を叩いてから何十年が経っただろう。大学院当時、月1回開催されていた研究会では研究会終了後の飲み会の席での諸先輩方との熱い語らいや、まだ、先も見えずに「想い」だけが先走っていた当時のことが思い出されます。あれから、いくつかの職業を経験し得た新たな視点で再び、健康社会学（現在）の扉を叩いてみたいと思います。今年度から運営委員を拝命いただきましたが、早く研究会の皆様方のお力になれるよう頑張りたいと思います。

●松岡 正純（白井市役所市民活動支援課） ◎代表

これからの健康な社会づくりは、分野や職種を超えてつながり、互いの専門性をいかしあいながら共に取り組む、協働スタイルが求められます。当会は、研究から実践にわたり多職種・多分野の人々が集うアットホームな会で、他の会（同じ分野や職種の集まり）では得られないネットワークの広さが魅力です。一緒にネットワークを広げ、健康な人、地域、まちを創っていきましょう！

●森川洋（帝京平成大学現代ライフ学部）

引き続きご指名ありがとうございます。研究会会員として22年目、運営委員として17年目、一人ひとりが語る健康を出発点に、理論の世界と実践の世界を行き来するための橋渡しとして、健康社会学研究会が機能し続けられるよう努力します。



第120回 月例会のご報告

「ユニバーサルデザインのまちづくり」

情報提供者：交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部 松原 淳氏 竹島 恵子氏

ファシリテーター：鎌倉女子大学／健康社会学研究会 臺 有桂

日 時：平成 29 年 6 月 10 日（土）15 時～17 時

会 場：東洋大学朝霞キャンパス

2020 年の東京オリンピック／パラリンピックを前に、国はユニバーサルデザイン化・心のバリアフリーを推進し、大会以降のレガシーとして残していくための方略を推進している。では、実際にどのように学生や市民を巻き込んで、ユニバーサルデザインのまちづくりを展開していけばよいのだろうか。

そこで、今回の月例会では、参加者 27 名の中、交通エコロジー・モビリティ財団のお二人から情報提供をいただいた。

まず、松原氏からは、「バリアフリー（BF）とユニバーサルデザイン（UD）のまちづくり&健康とまちづくり」として、社会には多様な人々がいるのが当たり前、前提であること。その上で、今のまちは、果たして多様な人々のニーズに対応できているだろうか、イギリスやキューバ、初台ヘルシーロードの先駆的な取り組みを紹介していただいた。さらに、リオ・パラリンピックの視察を通し、来る 2020 年、日本はどうやって世界中の人を迎え入れるのか。これを機に、人にとっても健康、まちも健康、持続可能なまちを創出していく、これこそが「まちの UD」であるとの示唆をいただいた。

ついで、竹島氏からは、オリンピックに向けた国の動向、心の BF に向けた研修プログラムなどの実際について情報提供いただいた。さらに、UD の典型でもあるコミュニケーション・ツールのピクトグラムについて、文化・風習や人々の価値観を踏まえた、世界標準化の現状と課題について、エピソードを含め、お話いただいた。

これらを受け、後半は『「授乳室」「チャイルドケアルーム」づくり』演習にグループで取り組んだ。まずは、授乳室等とは、どんな人が、どのような状況で利用するのか、そして、部屋に備えるべき必要なコンテンツを抽出した。さらに、抽出したコンテンツや想定した状況を踏まえ、部屋のレイアウトを行った。結果、家族でゆっくりとできる空間を重視したグループ、機能性を重視したグループなど、それぞれ個性的な企画を共有し合うことができた。

今回の月例会では、BF、UD と一口に言っても、我々の日常の景色の中に、まだまだ多くの課題を抱えていることが痛感できた。前半の情報提供では、BF、UD の理念を、どのように実践に落とし込んでいくかを改めて考える機会となった。演習では、グループでワイワイと楽しく取り組みつつ、配慮が必要な方々（ここでは赤ちゃんと養育者）に対する理解ができているだろうかという課題に直面した。たかが「授乳室」「チャイルドケアルーム」、されど・・・である。なぜなら、単にパッケージで設営すればいいのではなく、利用する人の動線、部屋の衛生面・安全面・プライバシー保護について考えることはもちろん、利用者はいまだきのイクメン&じじいばば、家族連れ、障害児や医療処置の必要な子どもなど、自分の経験や価値観を超えて想像を広げていくことが求められるのだ。つまり、この想像力は、まちの建物、景観といったハードの整備だけでなく、まちづくりに欠かせないものである。どんな人が、どんなニーズを抱え、どのように利用（生活）していくのか、BF や UD のまちづくりの実現には、多様な人々や当事者と共に語り・考えることが不可欠であること、さらには、我々の心の BF が何よりもその前提となる鍵なのだと感じる一日となった。

（文責：臺）

会員近況報告

油井治文

よわい53にしてオールドルーキー（専業主夫の）となり早10ヶ月が経過しました。

島内先生との出逢いから「健康に好ましい環境づくり」の実現に向けた取組みに汗をかいて来たことへの誇りを胸に平成28年8月31日をもって早期退職致しました。

ご無沙汰しております。元新宿区保健所の油井でございます。

元保健衛生監視が専業主夫となって感じたこと、気が付いたことなどのよもやま話に暫しお付き合い下さい。

退職後の秋の平日、突然降り出した雨、お隣の洗濯物が気になり窓の向こうに見える隣人に身振り手振りで雨を示して以来そろそろカミングアウトしないとヤバい。それが近隣の先輩主婦の方々への告知のきっかけとなりました。その後、朝昼晩のご挨拶も軽やかに出来る様になった幸いです。何でもない日々がありがたく、時に疎ましく、何やってんだ俺など気分は上がったり下がったりと忙しくしておりました。そんなある日、認知症の義父のこと等でお世話になってきた民生委員であり地元自治会長でもある方から平成29年度から副会長をやってはくれないかとオファーを頂きました。散々悩み、書籍【「町内会は義務ですか？」（小学館新書）「どこまでやるか町内会」（ポプラ新書）・共に紙屋高雪著等々】を読み漁り、役を引受けることに…。であるならば、そうだ、『Think Globally, Act Locally』だ。

専業主夫のオールドルーキーとして『すべての人々が人生を謳歌するために、健康に好ましい環境づくりを地域から！』その一端を担おう！この地域に住んでいて、この自治会員で（自治会加入は任意ですから、会員以外の方も、自治会員の方には更に）良かったと感じていただけるようにと、新たな一步を踏み始めたところです。

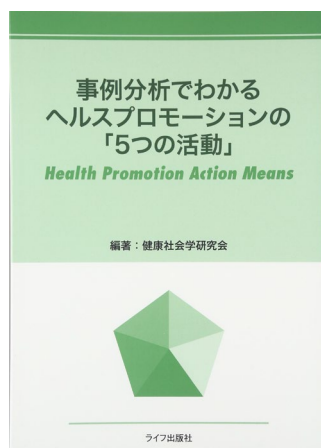
【追伸】竹原ピストル「オールドルーキー」を是非、お聴き下さい。

事務局より

●書籍のご案内

「事例分析でわかるヘルスプロモーションの『5つの活動』～Health Promotion Action Means」

健康社会学研究会編（ライフ出版） 定価：¥2,500+消費税



購入方法

1. 会場販売（3割引 ¥1,900）：
当研究会セミナー・月例会の際に販売。
2. Amazon.co.jp より定価にて販売。

本研究会の特色は、様々な分野で日頃より活動し、「人々の健康」をコンセプトに実践の世界と理論の世界を行き来しようとしている人たちが集まっているという点にあります。本書は、そういった会員の皆様より寄せられた具体的事例を取り上げ、「ヘルスプロモーションの5つの活動」という視点から検証しています。

会員の皆様にはすでにお送りしておりますが、関係各所にぜひご宣伝ください。事務局には本書のチラシがございます。必要に応じ、チラシをお送りしますので、事務局まで直接ご連絡ください。

ウェブ上では「書名（事例分析でわかるヘルスプロモーションの「5つの活動」）」を検索エンジンにかけると、ネットでの購入が可能です。なお本研究会主催のセミナー・月例会・日本公衆衛生学会自由集会の際に直接会場にてお求め頂くと3割引き（税込み1,900円）での販売を行っております。

また本書に関するご意見、コメントなどもぜひお寄せください。よろしくお願いいたします。

●ニュースレターの電子化～30年度よりニュースレターをメール配信に移行します

現在、会員の皆様にはニュースレターを、紙媒体とメール（メール配信は希望者のみ）にてお送りしています。次年度より紙媒体からメールのみでの配信に移行いたします。なお紙媒体での配信を希望される方には、引き続き郵送にてお送りいたします。

研究会活動の更なる充実化と事務局業務省力化のため、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

●平成29年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。新年度会費の納入を前回お送りした払込票、もしくは銀行振込にてお願いいたします。（既にお振込みいただいた方、ありがとうございました。）

会費納入先

郵便振替：00100-8-41025

銀行口座：

みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 松岡正純

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）当座 〇一九店（ゼロイチキョウ店：店番019）

0041025 ケンコウシャカイガクケンキョウカイ

●月例会報告者の募集（随時受け付け）

学会報告や論文の投稿を考えている方、学位論文作成中の方、月例会で報告してみませんか。仮テーマ、発表のご希望時期を事務局へお知らせください。